

体験活動推進プロジェクト 防災キャンプ推進事業

体験活動推進プロジェクト「北海道防災キャンプ」

北海道教育委員会

【事業のポイント】

- 北海道は、地震や津波のほか、火山災害、水害、雪害など、これまで多くの災害と向き合ってきた経験を有しており、本事業では、過去に地震・津波や暴風雪により大きな被害を受けた2つの地域で防災キャンプを実施した。
- 防災キャンプでは、次代を担う青少年防災リーダーの養成のほか、住民が主体となった地域防災体制の確立を目指した。



1. 企画

(1) 事業実施の背景

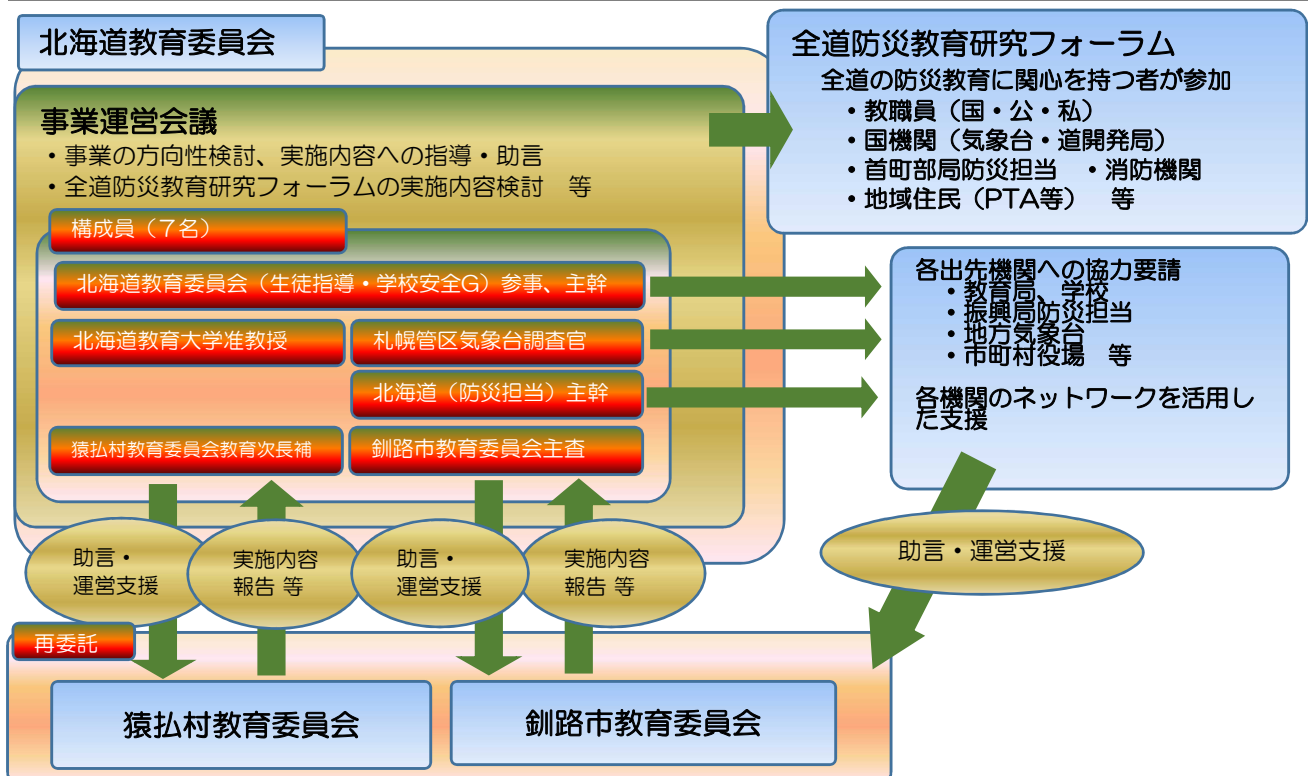
北海道は、太平洋沿岸部を震源とする巨大地震発生時に、大きな揺れと津波による被害を受ける可能性が高いほか、有珠山、樽前山をはじめとする多くの活火山を有しており、これまでの想定を超える災害に備える必要がある。また、昨年3月には、道東地方を中心に暴風雪に見舞われ、多くの尊い命が奪われた。このため、各地域において、地域の実情に応じた災害に備え、災害発生時に適切な対応や避難行動をとるための意識を高めるとともに、住民同士の絆を深め、住民主体の防災体制を構築する必要がある。

(2) ねらい

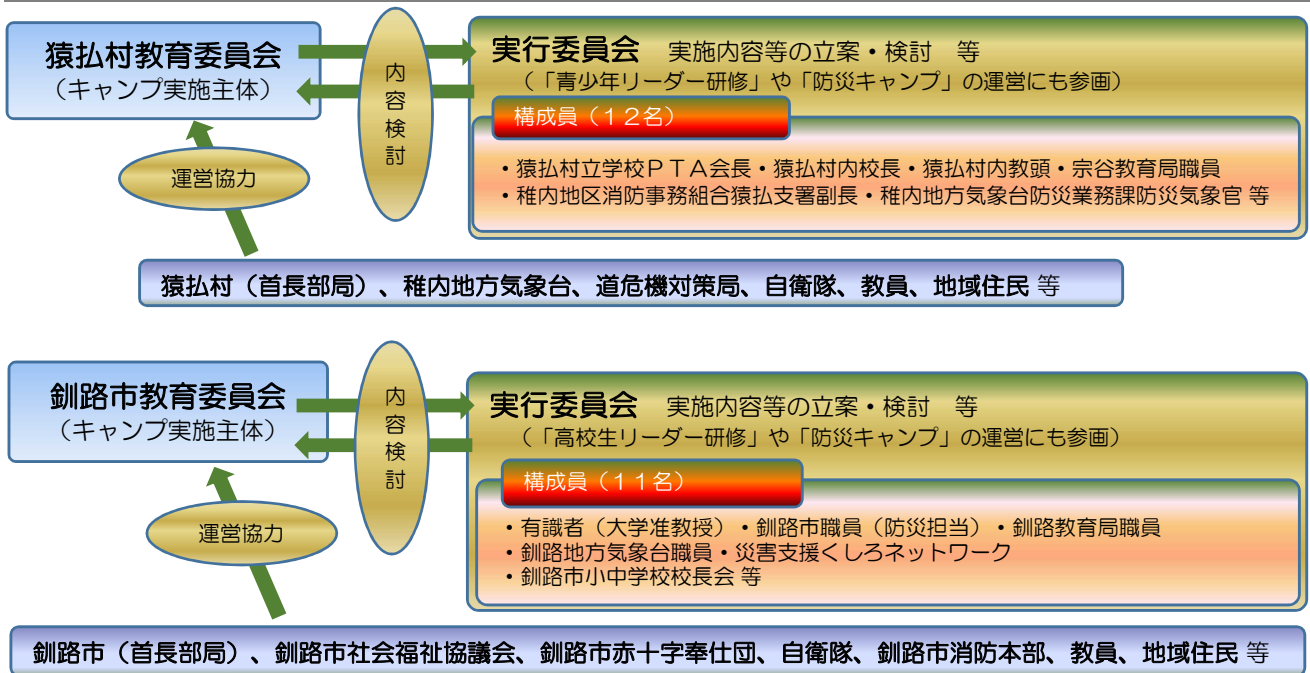
「北海道防災キャンプ」の実施を通して、地域住民や児童生徒の防災意識を高めるとともに、学校、家庭、地域が連携して、これからの防災教育の中核を担う高校生などの青少年リーダーを養成し、地域における防災体制の確立を目指す。また「全道防災教育研究フォーラム」を開催し、学校における防災教育や地域の防災活動について特色ある取組の普及に努め、道内各地域における防災教育や防災活動の充実を図る。

2. 事業概要

(1) 運営体制



(2)開催実績



月 日	内 容
6月13日	第1回事業運営会議(防災キャンプ実施内容検討)
6月26日	第1回防災キャンプ実行委員会(猿払村)
6月26日	第1回高校生防災リーダー研修会(釧路市)
7月2日	第1回防災キャンプ実行委員会(釧路市)
7月19日	第2回防災キャンプ実行委員会(猿払村)
7月23日	中学生リーダー研修会(猿払村)
7月24日	第2回防災キャンプ実行委員会(釧路市)
7月28日～30日	猿払村防災キャンプ
8月9日～11日	釧路市防災キャンプ
10月11日	第2回事業運営会議(全道防災教育研究フォーラム事業概要検討)
12月3日	全道防災教育研究フォーラム開催
1月24日	第3回事業運営会議(事業実施内容の総括)

3. 防災キャンプ実施概要

【猿払村防災キャンプ】

(1)運営体制

主催:猿払村教育委員会

主管:猿払村防災キャンプ事業実行委員会

協力:北海道、北海道教育庁、北海道教育庁宗谷教育局、札幌管区気象台、稚内地方気象台、稚内地区消防事務組合猿払支署、猿払村役場、村内各小中学校、浜鬼志別自治会

(2)実施内容

【7月28日(日)】防災キャンプ(1日目)

- 開会式
- 体験活動Ⅰ(避難行動)
- 講話Ⅰ(東日本大震災における救助避難活動)
講師:陸上自衛隊名寄駐屯地職員
- 体験活動Ⅱ(避難所の設営)

停電、断水体験

ライフライン途絶下を想定した避難生活を体験するとともに、中学生リーダーの下、避難所の設営、避難所の受入、避難所運営の役割分担を決定。



避難所設営の様子

- 夕食(非常食体験)
水、調理器具がないことを想定した非常食による夕食。
- 体験活動Ⅲ(交流活動)
ダンボールハウスづくり
- 1日目のふりかえり
1日目の活動の振り返りを各グループで実施。



夕食:非常食体験

【7月29日(月)】防災キャンプ(2日目)

- 朝食
- 講話Ⅱ(気象等の知識、自然災害と避難について)
講師:稚内地方気象台職員
- 体験活動Ⅳ(フィールドワーク活動)
講師:猿払村役場防災担当職員
- 昼食
- 体験活動Ⅴ(防災ヘリ体験)
- 体験活動Ⅵ(救急救命について)
- 夕食(カレーライスづくり)
各グループリーダーを中心に協力してカレーライスづくりを行う。
- 体験活動Ⅶ(釜風呂体験)
避難生活における衛生管理の大切さを知る。
- 2日目のふりかえり



津波の実験



道防災ヘリによる救助訓練

【7月30日(火)】防災キャンプ(3日目)

- 朝食
- 保健師による健康チェック
- 避難所撤収作業
全員で協力して、避難所の後片付けと撤収作業を実施
- 体験活動Ⅷ(ふりかえりと全体会)
防災キャンプで学んだことを個人でふりかえり、グループでまとめる。
- 閉会式



ふりかえり・全体会

【釧路市防災キャンプ】

(1)運営体制

主催:釧路市教育委員会

主管:釧路市防災キャンプ実行委員会

協力:北海道教育大学釧路校、釧路市小中学校校長会、釧路地方気象台、釧路市連合町内会、第1地区防災推進協議会、釧路市PTA連合会、学校運営協議会、災害支援くしろネットワーク、釧路野外教育研究会、北海道教育庁釧路教育局、釧路市

(2)実施内容

【8月9日(金)】防災キャンプ(1日目)

- オリエンテーション
事業の趣旨説明、リーダー・ボランティア紹介、避難訓練時の注意事項
市防災危機管理課より5mの津波の高さの表示と説明
- 体験活動Ⅰ(避難訓練)
港町かもめホールより釧路小学校(避難場所)まで徒歩による避難
- オリエンテーション
想定事例説明、スケジュール確認、避難所での注意事項
- 体験活動Ⅱ(応急手当学習)
三角巾を使用した応急手当(三角巾の結び方、頭部止血法)、AED講習
講師:釧路市消防本部警防課職員
- 体験活動Ⅲ(避難所開設体験)
避難所開設説明、救護場所及び各グループの生活場所の設営
- 夕食(炊き出し)
おにぎり、豚汁による夕食
- 体験活動Ⅳ(緊急時体験学習)
避難所で何が役立つかイメージトレーニングにより考え、理解する。
- ふりかえり



避難行動



避難所づくり

【8月10日(土)】防災キャンプ(2日目)

- 朝食(非常食体験)
アルファ米、味噌汁、サンマ缶、きんぴらごぼう缶(すべて非常食)
- オリエンテーション
想定事例の説明、2日目のスケジュール確認
- 体験活動V(フィールド学習「防災ラリー」)
支援物資、食糧調達、避難所周辺の現地調査
- 講話「27次隊5日間の活動報告について」
講師:災害くしろネットワークの被災地派遣者10名(一般3名、高校生7名)
- 昼食(炊き出し体験)
焼きそば、フランクフルト、スープ
- 体験活動VI(津波発生メカニズムの学習)
講義:自然災害って?津波、液状化、共振のメカニズム、自然災害から身を守るために
体験:津波発生のおしり、液状化のおしり、共振のおしり
講師:北海道教育大学釧路校准教授、釧路地方気象台職員
- 体験活動VII(災害救助体験)
災害救助時使用機材の展示と説明、即席担架づくり実演
講師:自衛隊第27普通科連隊
- 体験活動VIII(自炊体験)
カレーライス、サラダづくり
- 体験活動IX(入浴体験)
野外仮設風呂の体験



防災ラリー



液状化の実験



仮設風呂

【8月11日(日)】防災キャンプ(3日目)

- 朝食(非常食体験)
缶入りパン、野菜炒め、ソーセージ缶、牛乳
- オリエンテーション
想定事例の説明、3日目のスケジュール確認
- 体験活動X(家で防災の話しよう)
震度6強の地震時、自宅で危険な物や場所をイメージし、改善のための配置や工夫を考える。
緊急地震速報の音を知り、理解し、緊急地震速報の音が鳴った時に身を守る行動をとる。
学んだことを家庭で話をしてもらい、家族で情報共有できるように子どもたちに意識させる。
- 体験活動XI(避難所撤去)
2泊3日過ごした避難所を撤去し、各グループの居住区、共有部分の清掃・ゴミ捨て
- 修了式



朝食



活動のまとめ

【全道防災教育研究フォーラム】

(趣旨)

災害時における危険を予測・回避し、適切かつ安全に行動できる能力を児童生徒に身につけさせる安全教育の充実と、学校、家庭、地域が連携して児童生徒の安全を確保する体制や地域のネットワークづくりの推進に資するとともに、研修成果の普及啓発を通して全道の防災教育の充実を図ることを目的に開催。当日は、教育関係者のほか、国や道、市町村の防災担当者等、約100名の参加があった。

■平成25年12月5日(木)

- 13:00～ 開会
- 13:10～ 基調講演「これからの防災教育に求められること」
講師:京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授
林 春男 氏
- 14:50～ 事例発表
ア 猿払村防災キャンプの取組について
イ 釧路市防災キャンプの取組について
ウ 実践的防災教育総合支援事業等の取組状況について
- 16:00～ 演習・協議
演習「学校現場で役に立つ防災に関するクイズ」
協議「学校における防災教育の充実に向けて」
- 16:50～ 講評:北海道教育大学教育学部札幌校准教授 今 尚之 氏



4. 普及啓発の実施概要

- ・北海道教育委員会のHPに、全道防災教育研究フォーラム開催案内を掲載
- ・全道防災教育研究フォーラムにおいて、京都大学防災研究所巨大災害研究センター教授の林春男氏による基調講演、防災キャンプ実施市町村による実践発表、学校現場で役に立つ防災に関するクイズ、学校における防災教育の充実に向けて協議を行うなど防災教育に関する普及啓発を図った。
- ・北海道教育委員会のHPに今年度の実施内容や成果を掲載

5. 成果と課題

(1) 事業成果

- ・防災キャンプ実施に当たっては、実施市町村の教育委員会において、首長部局の防災担当課はもとより、地方気象台や自衛隊、消防等と連携しながら、各地域の持つ地理的な特性を踏まえた、「体験活動を中心とした防災教育プログラム」を作成することができた。
- ・防災キャンプの参加者からは「普段の生活ができるのが、とてもありがたいと思った」、「震災の時は、やっぱり助け合う普段の行動が大切だと思う」、「この体験をとおして自分が生きていて家族といれるうれしさ、学校で学べるうれしさを学びました」、「リーダーとしての責任感を学んだ」などの感想が寄せられた。
- ・「全道防災教育研究フォーラム」においては、札幌管区気象台後援のもと、北海道教育委員会、札幌管区気象台、北海道の防災担当部局の3機関が各々持っているネットワークを活かし、教職員、保護者に加え、大学、国機関、首長部局防災担当、消防関係機関等に広く周知したことにより、100名余りの参加を得、防災キャンプの普及啓発を広く行うことができた。

(2) 事業運営上の課題・留意点

- ・道内においては今後、太平洋沿岸地域の津波浸水予測図の見直しが行われ、地震、津波対策が喫緊の課題となっていることに加え、火山噴火や暴風雪、雪害に伴う停電など、多くの災害発生要因を抱えている。今後は、今年度の実施成果を踏まえ、関係機関の実質的な連携の輪をさらに拡大・強化し、「市町村レベルでの防災教育関係機関の連携」を促すとともに、本事業を継続して実施し、積極的に普及することにより、「災害時に自ら考え、主体的に行動できる児童生徒を育成する取組」を根付かせていきたいと考えている。

(3) その他

- ・北海道では、平成26年度も防災キャンプの実施を予定している。今年度は、人口規模が数千人から十万人以上の2市町村で、異なる災害を想定した防災キャンプを実施したが、26年度は、人口規模や想定される災害の種類や規模等について違う視点も入れながら、事業を構築していきたいと考えている。

6. 団体プロフィール

北海道教育委員会

所在地：札幌市中央区北3条西7丁目

北海道は、179(35市、129町、15村)市町村(札幌市を含む)から構成されており、人口約550万人(H22国勢調査)の自治体である。また、平成20年度の道内総生産は、18兆3595億円と世界40位前後の国に相当する経済規模を有している。総生産の産業別構成比は、第一次産業が3.8%、第二次産業が15.5%、第三次産業が84.0%と、全国平均と比べ、一次、三次産業の比率が高く、二次産業の比率が小さい。

